

I 第35週の発生動向 (2013/8/26~2013/9/1)

- 手足口病については、上十三保健所管内では第28週から、八戸保健所管内では第30週から、東地方+青森市保健所管内では第32週から、むつ保健所管内では第34週から**警報**が継続しています。
- ヘルパンギーナについては、東地方+青森市保健所管内に新たに**警報**が発令されました。弘前保健所管内では第32週から、むつ保健所管内では第34週から**警報**が継続しています。

II 第35週五類感染症定点把握

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県感染症発生動向調査 TOP ページをご覧ください。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週比)	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		数	人/定点	数	人/定点
小児科 +内科 (85) インフルエンザ															0				
小児科 (74) RSウイルス感染症					7	0.8	2	0.4	1	0.2			10	0.2	6				
(75) 咽頭結膜熱															-4				
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	0.4			4	0.4	1	0.2	1	0.2			9	0.2	-9			3	0.4
(77) 感染性胃腸炎	16	2.0	4	0.4	2	0.2	2	0.4	1	0.2	7	1.8	32	0.8	-7			16	2.0
(78) 水痘	1	0.1	1	0.1	8	0.9	1	0.2	1	0.2	2	0.5	14	0.3	-1			1	0.1
(79) 手足口病	74	9.3	29	3.2	51	5.7	11	2.2	54	9.0	32	8.0	251	6.1	14			74	9.3
(80) 伝染性紅斑					1	0.1			1	0.2			2	0.0	2				
(81) 突発性発しん	3	0.4	2	0.2	7	0.8			4	0.7			16	0.4	-6			3	0.4
(82) 百日咳															0				
(83) ヘルパンギーナ	50	6.3	74	8.2	5	0.6	10	2.0	14	2.3	15	3.8	168	4.1	-16			50	6.3
(84) 流行性耳下腺炎	1	0.1	14	1.6			1	0.2	1	0.2	2	0.5	19	0.5	3			1	0.1
眼科 (86) 急性出血性結膜炎															0				
(87) 流行性角結膜炎	2	1.0	2	0.7	3	1.5	2	2.0					9	0.8	4			2	1.0
基幹 (92) クラミジア肺炎															0				
(93) 細菌性髄膜炎															0				
(95) マイコプラズマ肺炎			1	1.0	2	2.0					2	2.0	5	0.8	1				
(96) 無菌性髄膜炎															0				

は警報 は注意報。「空欄」: 患者発生無し。

III 全数把握疾患(掲載数は最新情報)

- (10) 結核(二類全数把握疾患): 青森市1人、弘前1人、八戸1人 (2013年計:207人)
- (16) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患): 青森市2人、弘前市1人、八戸1人 (2013年計:41人)
- (19) E型肝炎(四類全数把握疾患): 五所川原1人 (2013年計:3人)
- (71) 侵襲性インフルエンザ菌感染症(五対全数把握疾患): 弘前1人 (2013年計:1人)

IV 病原体検出情報

検出情報は、ありませんでした。



表 県内の年間検出数 (人)

年	人数	年	人数
2003	537	2008	34
2004	226	2009	82
2005	130	2010	44
2006	167	2011	36
2007	91	2012	19

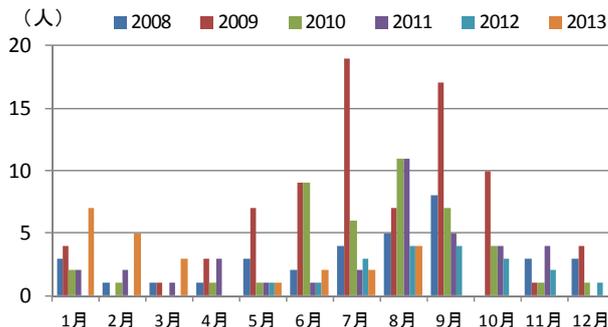


図 県内10医療機関の月別検出数 (2008年~2013年8月)

感染性胃腸炎-サルモネラ感染症- (五類定点把握疾患)

サルモネラ菌は、感染性胃腸炎の原因菌の1つです。本菌は、自然界のあらゆるところに生息し、ペット、鳥類、爬虫類、両生類が保菌し、特に家畜(ブタ、ニワトリ、ウシ)の腸管内に常在しています。

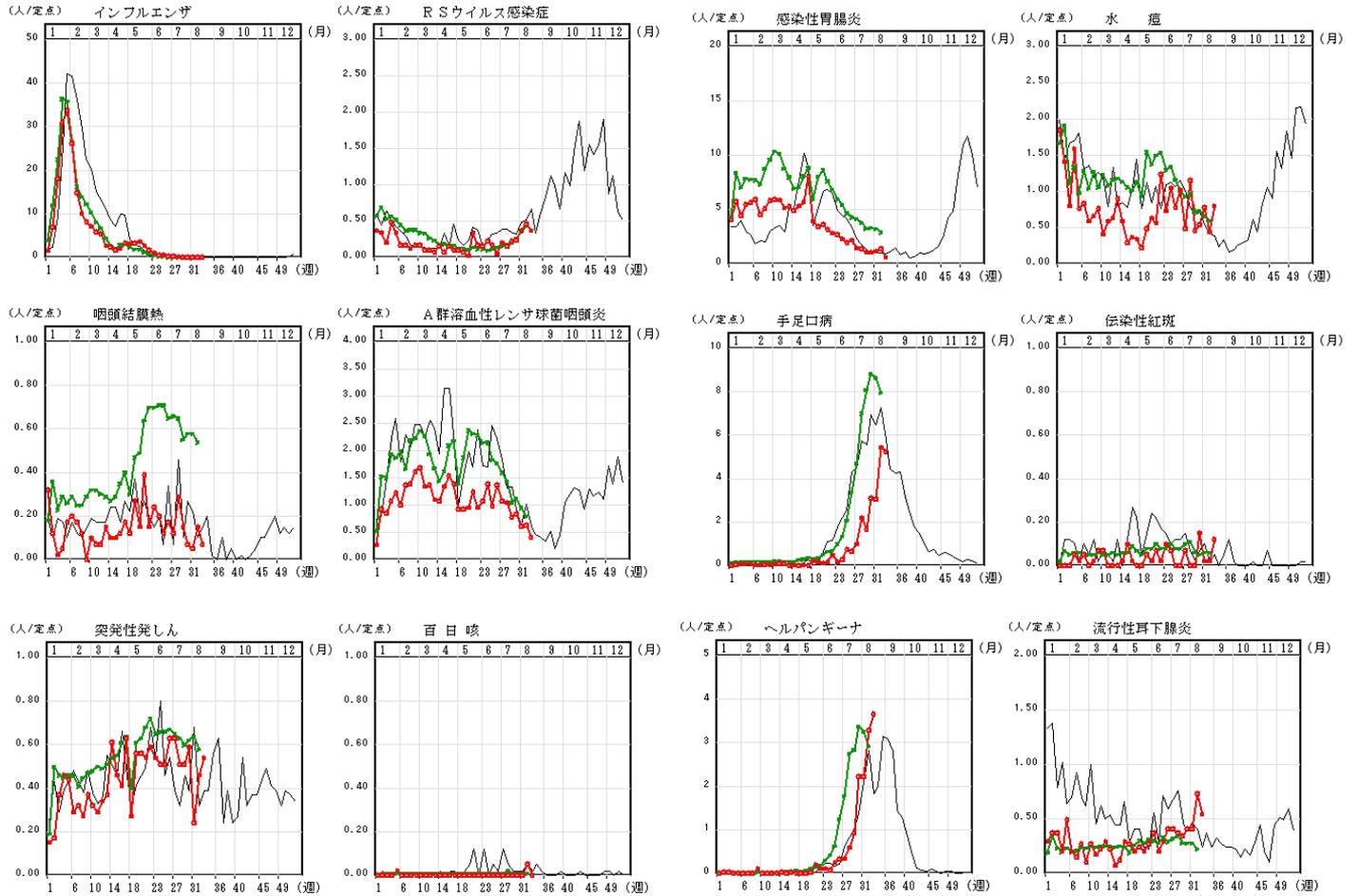
症状は、通常は8~48時間の潜伏期間後に悪心、嘔吐で始まり、数時間後に腹痛、下痢を起こします。健康な成人では胃腸炎症状にとどまりますが、小児では意識障害、痙攣及び菌血症、高齢者では急性脱水症及び菌血症を起こし重症化する場合があります、回復も遅い傾向があります。

米国内では、乳幼児を含む子供がカメとの接触を原因とするサルモネラ症の集団発生が繰り返し発生していることから、厚生労働省は各都道府県に注意喚起しています。

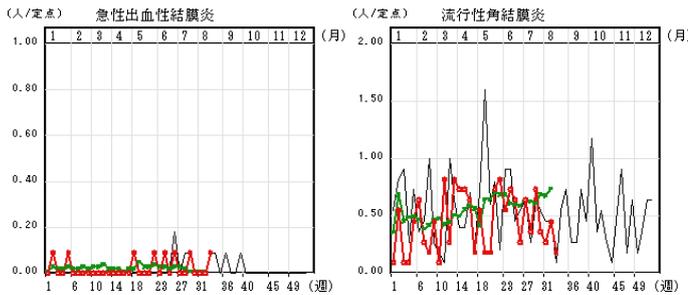
県内の10医療機関による病原微生物検出情報では、サルモネラ菌の検出数は、過去10年間の推移をみると年々減少傾向にあります(表)。月別では6~9月に多くなっています(図)。2013年は1~3月にも多く検出されており、今後も注意が必要です。

予防には、食肉、鶏卵の低温保存管理と調理時、調理後の汚染防止が重要です。動物(ペット含む)と接触した後は、手指を石けんで十分に洗うことが大切です。(参考: IDWR 感染症の話)

グラフの説明 ○—○は2013年青森県、—は2012年青森県、 ×—×は2013年全国



Ⅸ 眼科定点把握疾患週別推移 2013年第34週



Ⅹ 基幹定点把握疾患週別推移 2013年第34週

